

令和7年6月30日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い けん き な みどり の さと おお くさ の 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

いい天気になりました！ 田植え体験学習

「未知との遭遇」という感じの子ども達でした！ 6月20日（木）

「田んぼに入ってください！」という会長の掛け声に続いて聞こえてきたのは、終わりのない「キャア〜〜！」の声でした。初めて田んぼに入る子がほとんどだろうとは思っていましたが、なかなか入ることがで



きないので見ていると、カエルや虫が苦手で入れない子がいたようです。G達と約60年の隔たりがあると、小動物を追いかけて回して遊んでいた私達とは違うのは当たり前だとは思いますが、目の前で繰り広げられる光景には、「ウ〜ン、こんなに？」と実感せずにはいられませんでした。こども達はバラエティに富んでいます。

さらに、今年の5年生は、男の子の3倍くらい女の子の方が多く、終始、賑やかでした。例年、初めのうちは苗の植え方が思うようにいなくても、中ほどになるとスピードアップしてくるのですが、今年は、ほぼ同じようなペースで終わりました。数人はずいぶん上達した様子でしたが、多くの子ども達は、苗より田んぼの泥の方に

たくさん関心が行っているようでした。

さて、秋なって美味しいお米がたくさん獲れるでしょうか？ 今年は、「おいしく、おいしく、美味しくなあれ！モエモエ、キュンキュン」を唱え忘れましたね。

後からでもいいので、5年生のみんなで、田んぼに向かって「モエモエ、キュンキュン」のおまじないをかけてください。

後からでもいいので、5年生のみんなで、田んぼに向かって「モエモエ、キュンキュン」のおまじないをかけてください。

コミュニティでは、これから除草作業や虫に食われないように様子を見ながら管理していきます。

10月になって、お米をたくさん収穫できて、美味しいご飯が食べられたらいいと思います。「古古古米」じゃなく新米を食べて元気に頑張りたいですね！



ホタルの幼虫放流体験をしました！

4年生のみんなでホタルの幼虫を放流

(6月25日：水曜日)

少し激しい感じの雨も降っていましたが、午前中で降り止みました。昨年、新しくできた人工池に幼虫を放流したかったのですが、蛍の幼虫のエサであるカワ



ニナが新しい人工池に生息するかどうか分からない、と言うことで放流ができませんでしたが、カワニナは池の中でちゃんと動いています。

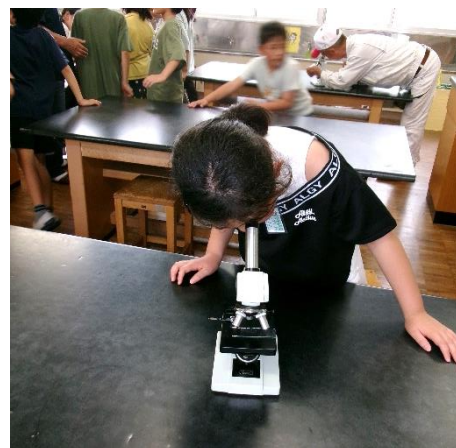
今年、4年生が人工池への初放流です。毎年、オスとメスの蛍を採取して卵を産ませ、幼虫を孵化させるなどのお世話をいただいている一ノ瀬俊孝(角ノ谷区)さんから放流のときの注意を聞いたあと、小さなホコリが浮いているようにしか見えない幼虫を紙コップに入れて、全員でカウントダウンして、人工池に放流しました。来年は、久しぶりに鑑賞会ができないか？と期待しています。



引く続き<生態学習> 蛍の幼虫観察

今年も、ホタルの幼虫を顕微鏡にセットするのが難しいのです。

教育委員会の方、簡単にセットできて、みんなで大きな画面で見られるような顕微鏡を買ってください！ 今年、4年生は、みんなすんなり顕微鏡を覗き込むことができました。去年はけっこう抵抗している子もいたようでしたが…。教室でも一ノ瀬さんからホタルの生態について説明を聞きました。大草野が蛍の名勝地になったらいいですね。



今年の「かかし祭り」について（役員会で協議中！）

11日に開催した役員会時に、今年のかかし祭りについて話し合ってみました。

昨年は、SAGA2024の開催に伴って嬉野で開催される競技種目を、抽選して部会ごとに作成し展示していただきました。今年は、通常のようにそれぞれで決めたテーマで自由にかかし作りに取り組んで貰ってもよかったのですが、今年は、大草野小学校の開校150周年にあたりますので、せっかくの記念すべき年になりますので、150周年に因んだものを作れたら、という提案をいたしました。「150周年に因んだもの」と言うのが少し難しいテーマですが、「懐かしい平屋の校舎、講堂」「運動会」「修学旅行」「名物校長」「大草野の8賢人」などの案が出ました。部会長が、ある程度の案を持って部会員に「たたき台」を示す方がスムーズに物事が決まりますので、テーマの案は、来月の役員会までの部会長への宿題ということになりました。

〈編集後記〉

「我が家にも備蓄米！」

「お父さん、これ備蓄米だよ。」と言って、台所に置かれていた米を指さして娘が教えてくれました。米を生産していない我が家は、米価格高騰のあおりを受けて、夕食時に中華麺やうどん、素麺の出番が多くなっているのには気づいていました。いよいよ、「三ツトリ」さんが一番食べている、「古」が幾つ付くのか分からないお米を食べることになるのか…。と、少し寂しい気持ちにもなりました。

外交上の色々な制約もあるのですが、お米を一番美味しく生産している日本が、何故生産調整することになっているのか、以前からずっと疑問に思いながら国の政策を見てきました。が、先々自分の首を絞めるような結論ばかりを選んできたのではないかと、最近思っています。

諸外国が欲しくてたまらない、取引(デール)の材料になるような価値のある米に、なぜできなかったのか？

日本では、米があるのが当たり前すぎて、その良さに殆どの人が気づいていない。殆どではないか、とも思います。

「嬉野の良さを嬉野に住んでいる人が気づきにくい」とのと同じように。

ニトリさんが食べているご飯を食べて、チキンヘッドにならないようにだけはしようと、72才になつて、あらためて気を引き締めています。